

令和7年度 第1回国見町総合計画審議会議事録

日 時 令和7年5月28日（水） 10:00～11:30

出席者 審議会委員19名（欠席者3名）

【内 容】

1. 開 会（司会：企画調整課長）

2. 町長あいさつ

第6次国見町総合計画については、本年が計画期間の5年目であり、中間見直しの年となっています。また、第6次国見町総合計画の各論と位置付けている国見町過疎地域持続的発展計画についても、本年が計画期間の最終年度であるため、令和8年度から5年間の次期計画を策定する年となっています。現在、町には様々な計画がありますが、皆様ご承知のとおり総合計画は町の最上位計画となっていることから、策定には十分な議論が必要だと認識しています。

つきましては、町のこれからの5年間の羅針盤となる総合計画の見直しと次期過疎計画の策定に向け、各委員の皆様のそれぞれの立場から活発なご議論をお願いします。

3. 諮 問

町長から会長へ諮問書（第6次国見町総合計画の中間見直し及び国見町過疎地域持続的発展計画について）の手交

（会長あいさつ）

本日は、人口ビジョンの改訂や総合計画の中間見直し方針の提案が行われるということです。専門部会を設置し、しっかりと皆で議論していこうという考えだと聞きました。また、過疎地域持続的発展計画の策定についても議題にあがっています。国見町は過疎地域に指定されましたが、過疎というのは人口が減っていく地域のことです。国見町をはじめとして、小規模町村で謳われているひとつの言葉があります。それは賑やかな過疎地域を作っていこうということです。人口が減ってきてても住民たちが安心して、そこで幸せを感じながら暮らしている。そのようなユニークで温かな優しいまちづくり、オンリーワンのまちづくりをすると人材が集まってきます。そういう地域は賑やかな過疎、人口が減っても非常に人気で、皆さんが集まる賑やかなまちづくりが可能になるのです。ただ単に人口増だけを目的にするのではなく、いかに豊かで皆さんが幸せを感じられるまちづくりをしていくか、ということに現在取り組んでいるところだと思います。今回、総合計画の見直しがあり、様々な課題も顕在化しつつありますが、中間見直しの中でぜひ住民の皆さんの声をどんどん出していただき、これからのオンリーワンのまちづくりをどのような形で進めていけばよいのかということを話し合う、非常に素晴らしいきっかけになるのではないかと思います。これから各部会で、様々な話し合いの機会があると思いますが、皆様のご協力をお願いします。

4. 審 議

①国見町人口ビジョンの改訂（案）について

事務局

- ・国、福島県、国見町の人口推計について国立社会保障・人口問題研究所の推計に準拠したシュミレーションで対象期間を2070年に統一する修正を行った。
- ・町独自の移動者アンケートについて、前回から追加し1年分のデータとした。
- ・国見町は有配偶率が福島県、県北管内でも低く合計特殊出生率は県内でも最下位。自然減、社会減のどちらも進み、人口減少が加速化している現状を説明。

【質疑応答】なし

②中間見直しに向けた町民アンケート結果（速報版）について

事務局

- ・今回のアンケート結果については、あくまでも速報版であり、審議会委員の皆様へ共有するために作成したもので、町の施策部分は効果検証前であることを説明し調査結果を解説。
- ・今後は年代別、男女別等での分析を行い、国見町に継続して住み続けてもらえるような施策を盛り込む計画の見直しが必要となってくる。

【質疑応答】

会長

- ・施策の重要度・満足度の散布図を見ると、重要度が高い、満足度が低いなど今後の施策検討のために重要なものになると思う。

委員

- ・散布図を見ると、右上の施策は堅実なところかと思う。また左下の施策については町のプロモーションの部分かなと感じる。町民は町の堅実な行政運営を求めているのではないかと、予算などの制約はあるが、町民のそういった切実な思いがこの結果から浮き彫りになった。

事務局

⇒前回調査時よりも全体的に満足度が減少している状況。そこをどうすれば、何をすれば良くなるのか、今後の専門部会で検討や議論を行っていきたいと考えている。

委員

- ・最近、自分の周囲で農作業をしている外国人を見かける機会が増えた。外国人が突然来て桃を「木1本単位で売ってくれ」、「この車を売ってくれ」など様々な要求をされた。そんな状況になった場合どのような対応が必要なのか。

事務局

⇒国見町だけでなく、全国的に労働力不足が問題になっている。今後、国見町でも海外に労働力を求める機会が出てくるかもしれない。そのような時に、町民が安心して暮らせるような、外国人と地域の方が交流できる場所を作ることが求められるのではないかと考えている。

会長

- ・相互理解を深めるため、お互いにコミュニケーションをとることが求められる。外国人労働者との関わり方なども専門部会で検討をお願いしたい。

委員

- ・調査結果の解説で順位付けされたものが、41の施策のどこに紐付けされているのか分かりづらいと感じた。また、順位付けがポイント制になっているが、どのポイントを積算してこの結果になっているのか。最後に、このアンケート結果を見ていると、後半の施策に行くにつれて無回答が増加していると感じるが、そのことで結果に影響は出ているのか。

事務局

⇒調査結果の解説で順位付けをしたものが41の施策のどこに紐付いていくのか、説明する資料を用意することができなかった。また、ポイントはアンケートの中で1位から10位までの順位とポイントを付けていただき、それを集計したもの。無回答の件については、アンケートの項目が多かったため、後半に行くにつれて無回答が増加したと考えられる。この点について、今後のアンケート調査の際は注意したい。今回の調査結果については、貴重な意見であるため、事務局としてももう少し分かりやすい形、簡単な形にして専門部会等で提示したい。

③第6次国見町総合計画中間見直し及び時期国見町過疎地域持続的発展計画策定の方針（案）について

事務局

- ・第6次国見町総合計画は計画期間が令和3年度から令和12年度までの10年間となっていて、本年度が計画の中間年度にあたるため本年度に計画の検証と見直しを行う。
- ・2023年度から国の方針としてデジタル田園都市国家戦略が示され、市町村においてもデジタルの力を活用しながら地域の個性を活かし、社会課題の解決や地域の魅力向上の取り組みを加速させる必要がある。
- ・少子高齢化による人口減少加速や新型コロナウイルス感染症拡大によるIT化の進展により、社会全体のデジタル化が促進されるなど社会情勢が大きく変化している。現在の町の課題等の洗い出しを行いながら町コーポレートアイデンティティやICTを利活用したまちづくりなどの実現に向け、町民の多様な意見を反映させるために専門部会を設置する。なお、見直し結果については令和8年度からの後期計画期間として改訂を想定している。

事務局

- ・国見町は令和4年度から過疎地域指定を受け、令和7年度を終期とした過疎地域持続的発展計画（過疎計画）を策定した。第2期計画は第6次国見町総合計画の見直しと一体化して進めていくこととしたい。第2期となる過疎計画では、過疎対策事業債などの国の特別措置が該当となる見込みの事業などに絞り、計画の中でいつ事業を実施するのかスケジュールを明記したい。なお、策定の時期について国、県から明確なスケジュールは現段階で示されていないが、3月議会での上程を検討している。

【質疑応答】

委員

- ・過疎計画について、総合計画と一緒に議論するものなのか。それとも、総合計画で議論したものの中から過疎対策事業債に該当するものをピックアップするのか。

事務局

⇒町として総合計画を総論、過疎計画は各論といった位置付けにしている。今後、専門部会の中で各委員の方から出された、こういった事業を今後国見町で実施してほしいといった要望など、過疎対策事業債に該当しないものであっても、町として必要な物であれば幅広く過疎計画に入れ込んでいくことを想定している。

④国見町総合計画審議会専門部会の設置（案）について

事務局

- ・専門部会は5部会を設置し、1部会あたり8名程度で構成したいと考えている。教育に関する分野については、本年度に国見町教育ビジョンが改定となるため、教育ビジョン検討委員会との合同開催を検討している。
- ・専門部会では、若手の方や今後の国見町を担うような方に来ていただき議論してほしい。各組織の代表者に限らず、人選は各組織に一任し男女比は半々を目指したい。部会長・副部会長は互選とし、全3回程度の開催を想定している。議論する内容はあらかじめ事務局で明確にし、提示したいと考えている。
- ・6月議会の補正予算議決後に、各組織等へ正式な依頼を行う。その後、各部会のメンバーや部会の日程、会議資料などが決まり次第、委員の皆様には報告を行う。

【質疑応答】

委員

- ・審議会委員と専門部会に選出する委員は別という認識でよいのか。

事務局

⇒お見込みのとおり。専門部会の委員については、各組織で選出をお願いしたい。今年度は審議会を4回、専門部会は3回の開催を予定しているため、どちらの委員も兼務となると本日を含め7回の出席となるため負担が大きい。専門部会では、人材育成も含め各組織から様々な方を選出していただき、忌憚のない意見を頂戴したい。

会長

- ・飯舘村で総合計画に関わってきた経験があるが、専門部会を作りそこで議論するということは住民にとっても非常に良い学習の場になる。町がどのような状況にあるのか、普段の生活では触れることのない具体的なデータ等が示される。飯舘村では村の人材育成の場にしようと、今後地域を担う人たちに議論へ参加してもらうように促していた。委員の方たちの負担軽減という側面もあるが、新しい人材育成という視点からも積極的な推薦をお願いしたい。

- 各部会で出された要望や意見には重複する部分がたくさん出てくると思うが、そこが十分に共有されないまま各部会で議論が進んでいくと後の整理が非常に大変なる。それぞれの部会の議論した内容については横串を意識して、部会間での情報共有を十分にしながら活発な議論をお願いしたい。

5. 閉 会